



ぼろにあ祭 田高生に感動

校長 海發 真一

第53回ぼろにあ祭が9月9日（土）、10日（日）に開催されました。実行委員の生徒が中心になって催し物の企画や準備を進め、ホームルーム、委員会、部活動の各団体による公演、上映・展示、模擬店・ゲーム、授業や総合的な学習の時間における研究成果発表と、田高生は文化の薫り高い学園祭を堂々と創り上げました。今年度のスローガンは「2日間の感動—いつかぼろにあ祭を思い出してきっと泣いてしまう—」で、来校くださった近隣地域、中学生、卒業生、保護者の皆様に田高の活力を存分に披露し、2日間の感動を心に留めていただいたところです。

8日（金）に行われたオープニングセレモニーでは、実行委員長の3年生が「しっかり取り組んだからこそ感動がある」とぼろにあ祭にかける思いを発し、「感動が得られるくらい、本気で取り組もう」と、生徒全員で熱い意気込みを共有したすばらしい場面がありました。

当日は、3年生の演劇祭からスタートです。3年生は卒業後の進路希望実現に向け勉強に取り組む大切な時期ですが、一人一人が予定を遣り繰りし、劇の企画や準備に時間を捻出しての参加となりました。部活動を引退し勉強に専念する3年生が、高校生活最後の学校行事に向けクラスの仲間と協力する活動は、田園調布高校やホームルームへの所属感や仲間との連帯感を深める上で大変意義のあるものです。友だちと協力して一生懸命に取り組んだからこそ得られる感動や充実感は、仲間と共に田高で学んだ証（あかし）となって、いつまでも心に残るものだと思います。

私は全クラスの演劇を楽しみましたが、全ての劇に貫かれた「人の心の温かさ」や「人生の教訓となるストーリー」にとても感動しました。お菓子の国の物語では、きのこ対抗のこの争いについて、甘いもののあとの塩味はおいしいと両者を一括りに皮肉ることで、争いの荒唐無稽さをポテチが静かに指摘します。菓を飲まない狼に帰ってしまう少女に恋をした少年は、好きなのは君自身であり外見はその特徴に過ぎないと熱く語りました。「スペードの3」では、演劇部に所属する生徒が、他者の評価を気にし過ぎることなく自分の価値観を確立して生きることの大切さを観る人の心に訴えます。「大きな桐の木の下で」では、両親の高校時代にタイムスリップした少女が、田高の校章の由来となった桐の木の下で、心ときめく青春時代を迫体験する様子をさわやかに演じました。「日本からメガネが消えたなら」では、メガネが理由で失恋したと考える主人公のやるせない思いが巧みに演出されています。「若松さんによろしく」では、大きな病を打ち負かすことができなかった主人公の少女が、不慮の事故で入院生活を余儀なくされた少年に、「打ち込めることがある人は強い」と熱く励ます場面が印象的でした。

体育館ステージプログラムやサブアリーナの催し物では、吹奏楽部、箏曲部、ピアノ部の演奏、ダンス部、演劇部による公演が行われ、観る人、聴く人の心に響く成果を上げました。

校舎棟では、映像・展示、縁日・模擬店、お化け屋敷、ゲーム等、1・2年生のクラスによる催し物や茶道部のお点前、かるた部の競技かるた体験、マール部の焼き菓子販売、美術部の作品展、修学旅行事前学習展示等が行われ、田高が非日常の空間に仕立てられました。

学校行事を主体的に準備・運営できる田高生の実力を称えとともに、縁の下での力持ちとして活躍した生徒の地道な努力に大きな感謝の気持ちを表し、2日間の感動をいつまでも忘れずにいたいと思います。



学ぶことの楽しさ

副校長 牛込 俊裕

ぼろにあ祭が終わり、田高生はしっかりと気持ちを切り替え、学習活動に精励しています。ここでは私が過去に学んだことを少し紹介します。

教師をしながら大学院で学んだ経験で、学んだのは光触媒です。このテーマを選んだ理由は、もともと大学生の時に

触媒化学を専攻したこと、また将来のエネルギーを担えるテーマであることです。研究を進めるにあたり、まず行うのは文献調査です。今から十数年前の話ですが、パソコンに検索ワードを入れると、関連する研究論文のリストが出力されます。ある程度著名な論文誌ならばオンラインでプリントできました。ほとんどが英語論文です。山積みになった研究論文を読み、この分野で行われていることをまとめ、まだ行われていないことを探します。

次に行うのは研究計画です。化学の分野であり実験計画がその大部分です。通学した研究室で私が操作できるのは、プラズマ発生装置とガス分析装置、また解析センターには電子顕微鏡と X 線分析装置等がありました。これらの装置を駆使して、実験の結果を数値化します。仕事をしながらの大学院生生活のため、実験は土曜日から日曜日にかけて行いました。具体的にはチタンの金属板をプラズマ発生装置に入れ、酸素を流しながら反応させます。反応後は金属板の色が変わり、表面に触媒ができます。この触媒には環境浄化の能力があります。この触媒の表面を電子顕微鏡で撮影し、材質を X 線で評価します。また、環境浄化能力を確かめる研究でした。とても地味な作業ですが、世界最先端のことをしている自負で、徹夜も厭わない状態の生活でした。

さて、この触媒ですが私の大学の先輩が世界的権威として活躍されており、ノーベル賞発表に時期になると、今年こそ先輩の受賞であると期待を膨らませます。また現在はこの研究が次世代太陽電池の基礎技術として発展しており、今年には田高生が2名、東京都教育委員会の理数研究ラボで学びました。

学ぶことは楽しい、この気持ちは田高生の皆さんに周知の事実と考えます。もっと、勉強しましょう。

田高進路プロジェクト2017 第2学年「大学出張講義」

進路指導部 柏木 桃子

6月15日(木) 6、7校時、第2学年全生徒を対象に、大学の講義を実際に体験する「大学出張講義」を実施しました。各分野の先生方の講義を聞くことで、大学の授業の様子を知ると同時に、広く一般教養を高めるとても良い機会になりました。

「大学出張講義」講義タイトル

- 1 筑波大学 医学医療系
「臨床検査学の醍醐味 - 検査値から見える病態 -」
- 2 明治大学 情報コミュニケーション学部
「情報社会入門」
- 3 学習院大学 法学部法学科
「世界の中の日本法—比較法入門」
- 4 東京大学 博士課程教育リーディングプログラム「多文化共生・統合人間学プログラム (IHS)」
「心と身体の関係：ギリシアから現代に至る心身問題のゆくえ」
- 5 慶應義塾大学 修士課程政策メディア研究科
「読書環境のデザイン」
- 6 東京大学 大学院総合文化研究科超域文化科学専攻
「あなたはお化けを信じますか？—平安人の立場から」
- 7 東京学芸大学 教育学部 広域自然科学講座
「理科の教科書で茎の観察に使用すべき植物材料についての一提案」
- 8 中央大学 商学部
「経営学の基礎～企業の強さの源泉を考えてみよう～」
- 9 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
「システム×デザイン思考で世界をハッピーにしようぜ！」



今後の予定など

【3年生】9月14日に指定校推薦の第一次選考会議、22日には大学入試センター試験の志願票校内(進路指導部)提出締切日がありました。大学別入試対策説明会が一学期に引き続いて開催され、10月4日明治学院大学、10月13日成蹊大学、11月17日駒澤大学の説明会が予定されています。すでに一般(公募)推薦やAO入試の出願は始まっていますし、就職・公務員試験も続々実施されます。推薦書、調査書の依頼、願書の提出などの日程を意識しながら生活しましょう。何事も早くから十分な準備をして、具体的な作業に取り掛かったほうが成功する確率は上がります。進路の説明会や講演会などを大いに活用して、自分の進む道を決めていってほしいと思います。

【2年生】10月12日（木）に1・2年対象の「大学説明会」が開催されます。17大学のうち興味のある2つの大学を選択し、大学のカリキュラムなどについて説明を受けます。比較的時間があがるうちに自分の進路について必要な情報や資料を収集し、じっくり考えていくのが良いのではないのでしょうか。

【1年生】10月12日（木）に1・2年対象の「大学説明会」が行われます。1年生は17大学のうちひとつの大学を選択し、大学のカリキュラムなどについて説明を受けます。また3クラス合同で中央大学入学センターの方より、進学に対する姿勢と大学で学ぶべきことについての講演会を聞きます。自分の進路について真剣に考える機会と捉えて講演会および説明会に参加しましょう。

オープニングセレモニーと2日間の感動を有難う！

生活指導部 荻原 秀明

第53回ぼろにあ祭が開催されました。スローガン「2日間の感動～いつかぼろにあ祭を思い出してきつと泣いてしまふ～」を掲げ、準備は4月から始まります。

4月 ぼろにあ祭委員会で、委員の役割分担決まり始まり活動開始です。

5月 企画団体の一斉説明会や、スローガンが決まり、ポスターが募集されます。

6月 1次企画審査の発表があり、準備が2次企画書へと進みます。この頃、ポスター決定、また、映画・演劇団体の台本提出もあります。

7月 2次企画の審査があり夏休みの活動に移ります。舞台関係では、主演賞ノミネート・演出・発表順・8,9月体育館希望調査など、本格化する活動に向け、会計・食品・パネル・資材など説明会です。

9月 始業式から約1週間で開催です。連日遅くまで準備をしました。

☆前日（金）オープニングセレモニー

★1日目（土）午前 演劇祭 午後 在校生保護者、中学生及びその保護者のみ公開

★2日目（日）一般公開、16：30 から閉会式です。

本部の企画は、新規に「オープニングセレモニー」、校門装飾は「琉球をテーマ」に製作しました。みなさんお疲れ様でした。「オープニングセレモニーと2日間の感動を有難う！」

●パネル大賞 3年A組

●クラブ・委員会・有志団体最優秀団体賞

・舞台部門 ダンス部 ・展示部門 茶道部・マールブル部

●1学年最優秀クラス賞 1年D組 ●2学年最優秀クラス賞 2年C組

○3年生演劇祭部門

●ステージ効果賞 3年A組 ●脚本賞 3年D組

●優秀演技賞 3年D組 女子生徒 3年C組 男子生徒

●演劇祭大賞 3年D組



初めて迎えたぼろにあ祭

第1学年 手塚 登

1年生にとって初めてのぼろにあ祭を無事に終えることが出来ました。企画内容は、A組が「T塚君を襲った犯人を探せ」という謎解きゲームを、B組が「体感型1Bシアター」で映像を、C組が「1 Creation Museum #MV #PHOTO」で映像と展示を、D組が「パロD組」で映像と展示を、E組が「謎解きはBody Paintの後で」ということで体験とクイズを、そして、F組が「1Fが胸きゅんスカッとやるってよ。」ということで映像を発表しました。

1学年の最優秀クラスはD組でした。CMのパロディーながら、その中で見せたキレキレのダンスや拘りの映像が高く評価されたのでしょうか。他のクラスも担任に頼ることなく自分たちで工夫と改善を重ねながら、納得のゆく企画を作り上げていったと思います。夏休みになかなかメンバーが集まらなかったり、思うように撮影が進まなかったりと苦労した人達もいると思いますが、どのクラスも9月に入ってから集中力と粘りは見事だったと思います。

次は来年2月の合唱祭が待っています。体育祭・ぼろにあ祭で培ったクラスの団結力と粘りで、ぜひ素晴らしい歌声を響かせることが出来るよう、練習段階からしっかり取り組んでください。もちろん、以前にもまして毎日の授業を大切に受けて、家庭での学習も疎かにしないようにお願いします。勉強と行事や部活動を両立させて、充実した学校生活を！！

頑張ったぼろにあ祭、そして修学旅行へ

第2学年 吉田 宣浩

前号で「学校の中核へ」と題して、2学年になった67期生の働きに期待をしている旨を書きました。1学期における体育祭での活躍は既にお伝えしたところですが、2学期になってからも、ぼろにあ祭において、クラスはもとより部活動や委員会、係など至る所で67期生の活躍が目につきました。特に、準備や片付けなど地味な場面で頑張っている人が多く、とても嬉しい気持ちになりました。

さて、ぼろにあ祭が終わると2年生はすぐに修学旅行を迎えます。今年は、10月3日から6日にかけて長崎へ平和学習に訪れます。このところ、きな臭い話題が多い国内外ですが、もう一度70余年前の戦争について学び直すことによって、日本国憲法の原点である「平和主義」とは何なのかを改めて学習してもらいたいと思っています。すでに2年生は、1学期より修学旅行に関する事前学習を進めており、ぼろにあ祭では展示発表も行いました。（一部は教室の廊下に掲示してあります。）今から当日が楽しみです。

最後に学習活動について一言。67期生は入学当初、これまでの学年と比較して学力テストの成績は決して振るいませんでした。しかし、1年次当初から少しずつ普段の学習はもとより、週末課題や「帰れま点」、「家勉強キャンペーン」等を通じて学習の成果が表れるようになってきました。今年度に入ると、第1回スタディサポート、7月の模試ではこれまでの学年に引けを取らない成績を収めるようになってきています。この調子で、第2回スタディサポート（9/13実施）、11月（11/1予定）と1月（1/24予定）の模試に向けてどんどん上向いていってほしいと思います。期待しています。

The Show Must Go On!

第3学年 遠藤 浩司

今年も3学年の伝統行事である演劇祭が盛況のうちに終わりました。各クラスが個性を生かした演劇を舞台に上げることができたと思います。演劇祭では、一つの舞台を作るためにクラスの一人ひとりが各自の役割をこなしていくという総合力が求められます。本番を迎えるまでは紆余曲折の道のりだったと思いますが、さまざまな苦勞を乗り越えてきた66期生を讃えます。

ぼろにあ祭実行委員の言葉です。「私たち3年生は最後の行事と最後の夏休みを目の前にして計画を立て準備を進めてきました。早い段階からの準備のおかげで、全クラスが1学期末には脚本ができ、舞台練習までこぎつけることができました。夏休み後は公演日まで慌ただしく限られた時間を有効に使い本番を迎えました。この経験は私たちの高校時代の大切な思い出としていつまでも心に残るでしょう。今、私たちは受験という課題に向き合っていますが、視野を広く持ち、若いこの時期を楽しむ気持ちも忘れずにいたいです。」

A組「Waaaarrrr!!」ステージ効果賞受賞

B組「大きな桐の木の下で」

C組「日本からメガネが消えたなら」優秀演技賞受賞 男子生徒

D組「若松さんによろしく。— You Only Live Once —」演劇祭大賞、脚本賞、優秀演技賞受賞 女子生徒

E組「スペードの3」

F組「星空の下で、under the starry sky」

経営企画室からのお知らせ

これまでの「就学支援金」「奨学のための給付金」に加え、今年度から「給付型奨学金」の制度が導入されたことにより、種々の書類を提出していただいているところです。

制度ごとに、不足書類の連絡や提出の督促をさせていただいていますが、ご提出くだされば「役に立つ書類」ですので、ご家庭におかれましては学校からの配布プリントや郵便物等は、速やかに目を通していただき、ご対応くださるようお願いいたします。

また、学校の電話番号は03-3750-4346だけでなく、03-3750-4347、03-3750-4348からも発信されますのでご留意をお願いします。